

白河高校同窓会報

発行所
郵便番号 961-0851
福島県白河市南登り町54
白河高校同窓会
電話 ☎ 1116番
振替口座 郡山 02100-4-2774

発行人
安田好伸
編集委員長
堀川哲雄

(有)古楓堂堀川印刷所



同窓会長 安田好伸 (高18)

創立百周年に向けて

本校は平成三十四年に創立百周年を迎えます。五年後になるこの大きな節目にむけて、この程、学校側と同窓会役員とで、その準備にとりかかりました。

来年度に記念事業準備会を設立するための前準備として、記念誌の規模や記念事業の内容、記念講演会の講師をリストアップすること、それらの予算規模に応じた募金方法を検討することです。

本校は大正十一年に白河中学校として創立され、第二次大戦前後の動乱期を経て、昭和二十三年に白河高校と改称、今に至るまで二万余名の俊英を輩出してきました。

特記すべきは昭和三十年に起

きた山岳部の甲子遭難、昭和四十一年の水泳部の二十一連勝であり、昭和四十五年には理数科が設置され、平成九年には男女共学が実施されたことでしょう。

その時々在校生や教師陣がさまざまな歴史を形成してきたのです。創立以来九十五年にわたる各学年の活動が白高の歴史を形づくっているのです。

同級会や同窓会で話題になるのは、各人の在学当時の思い出です。同学年で共通の話題になることもあれば、世代が違って隔世の感をおぼえることもあります。

筆者の例(半世紀前)で言えば、木造校舎からコンクリート校舎に変わる年代であり、生徒総会

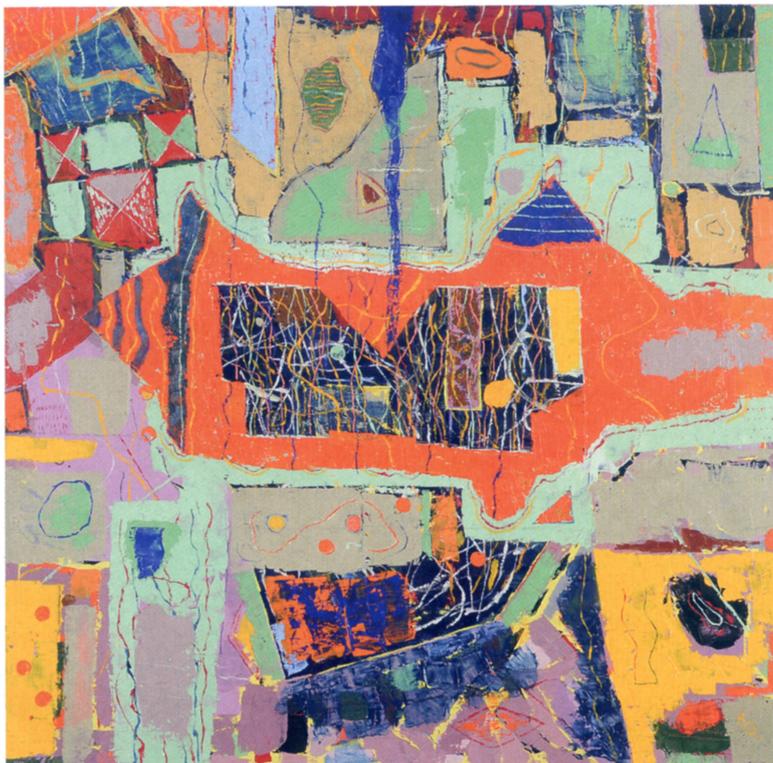
で坊主頭から長髪を認める決議を行った学年でもあります。水泳の授業は学年ごとに色の違う^{オビ}褌であり、緑色水で見通しのきかないプールで泳いだ後は、木造校舎の窓々に干した褌が風にはためく光景が見られました。私達の下の学年からは、水泳パンツになりました。たから、その白高名物は見られなくなりました。

市内一周マラソン大会の思い出や、郡内一周駅伝大会での出来事も話題になります。教科ごとの教師の癖や特徴は、学年をこえて話題になります。部活動での同級生の顔ぶれや顧問教師の指導法についても、学年をこえた話題になりえます。

同窓会の支部活動では、地域内の学年を越えた先輩・後輩の交流が見られます。西郷支部では自転車通学での帰り道が、上り坂で辛かったことが、塙支部では白棚線と水郡線の乗継ぎが大変だったことが話題になります。冬は夜が明ける前に家を出て、真暗な夜道を帰宅する毎日

だったことが、世代を越えた共通の話題になります。東京登龍会は、首都圏在住の白高同窓生の集まりです。隔年開催の総会は、九十名もの各世代の同窓生が集まり、白河での思い出話に花を咲かせます。また、ホームページを運用して、大いに盛り上がっています。

若い世代よりは年を増すほどに、母校への愛着が深まる気がします。多くの機会をもうけて、同窓の集まりを開催していただくことが、同窓会全体の活性化になり、創立百周年に向けて気運が盛り上がることになると思います。



「シンクロニシティ」

福島県美術賞

大谷勝美

S 50号 (縦 116.8 cm × 横 116.8 cm)



自信と誇りと

校長 太田 孝

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、本校教育にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

最初に、今年、本校に赴任してきました先生から本校についての感想を聞いたところ、「OBの方々が、白河高校に対して誇りと自信を持っているのがすごい」と話してくれた方がいたと

ます。白河高校を大切に思い、また、誇りに思う気持ちは、私も全く同感であり、校長としては、「生徒のみならず、保護者、教職員、同窓生、地域の方々というよう

な学校に関わる全ての人が白河高校に対して『誇りと信頼』を育てる学校でありたい」と、努めているところであります。

さて、毎年、四月の入学式の日になると、入学式の看板の近くや、桜の木の下で写真をとっている入学生と保護者の姿を見かけますが、入学生本人の表情

のみならず、保護者の方々の表情が光り輝いているように感じるのは、私だけではないと思います。同時に、また、白河高校は、同窓生の方々にとって、自分の子どもや孫が入学し、自分の後輩となるのは大変にうれしく、晴れがましい思いを抱かせてくれる学校であるとも感じています。

この本校に対する「自信と誇り」の源は、創立以来九十有余年となる歴史と伝統に支えられた県南地域の基幹校として、多くの人材を輩出してきた点にあることは言うまでもありません。本校のこれまでの九十有余年が、そうであったように、今後も、様々な方々に期待され、かつ、その期待に応える学校であり続けることが必要であると感じております。

白河高校の伝統を受け継ぐ現役生徒一人ひとりのよりよき自己実現の達成のため、同窓生の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻よろしく申し上げます。

平成29年度同窓会総会開催

去る五月二十日(土)、平成二十九年度白河高等学校同窓会総会が東京第一ホテル新白河(旧ホテルサンルート白河)にて開催され、五十八名の参加がありました。金澤隆夫事務局長(高23)の司会進行のもと、中村彰副会長(高20)が開会を宣言し、参加者全員での校歌斉唱を行った後、この一年間のうちにご逝去された会員の方々のご冥福を祈って、黙祷を行いました。続いて安田好伸会長(高18)から挨拶がありました。次に太田孝校長から、白高の近況報告と、菊地康博教頭をはじめこの春に母校に赴任した先生方が紹介されました。続いて、相馬博西郷支部長、石井久雄埼玉支部長、松岡久幸東京登龍会事務局長からそれぞれ挨拶がありました。この後、来賓を代表して父母と教師の会会長の矢内秀一氏、後援会長の櫻井

和朋氏(高12)と福島県議会副議長満山喜一氏(高22)からご祝辞をいただきました。続いて、慣例により還暦を迎える高27回卒から居川孝男氏が議長に選出され、議事に入りました。まず、庶務の横村勝己氏(高37)から平成二十八年度事業報告、会計の石塚次男氏(高26)から平成二十八年度決算報告が、加えて会計監査の立花栄治氏(高18)から監査報告があり、それぞれ承認されました。続いて、同じく横村氏から平成二十九年度事業計画案、石塚氏から平成二十九年度予算案が提案され、承認されました。その後役員改選に入り、安田会長から現在の役員全員の再任と、新たに庶務として藤田龍文氏(高39)、金内貴弘氏(高40)、兼子聡氏(高41)、



青木大氏(高43)の四名の追加が提案され、満場一致で承認されました。さらに鈴木雅文副会長から、五年後に迫った母校の創立百周年に関して、記念事業を実施すること同窓会としても学校側及び関係機関と協力して準備を進めていくことが提案され、満場一致で承認されました。その他として、東京登龍会事務局長松岡久幸氏(高22)から今年度の総会の開催について報告がありました。

最後に金子芳尚副会長(高26)が閉会を宣言し、総会を終了いたしました。



【平成二十九年度同窓会役員】

会長 安田好伸(高18)、副会長 中村彰(高20)、同金子芳尚(高26)、同鈴木雅文(高28)、会計 石塚次男(高26)、会計監査 立花栄治(高18)、同有賀秀晴(高28)、同満山喜美(高20)

平成28年度 白河高等学校同窓会会計決算書

収入の部 (単位 円)

項 目	本年度予算額	決算額	備 考
繰 越 金	1,952,225	1,952,225	
入 会 金	1,002,000	992,400	1,200円×827名(835名)
賛 助 金	2,000,000	2,320,000	
雑 収 入	775	50,840	預金利子・御寄付
合 計	4,955,000	5,315,465	

支出の部 (単位 円)

款	本年度予算額	決算額	備 考
項 目			
総 務 費	755,000	391,303	
事務費	25,000	14,891	アルバム、ゴム印、ファイル代
通信費	90,000	90,000	総会往復はがき(H28H29)切手等
会議費	150,000	66,500	東京登龍会会議費、お茶代等
総会費	160,000	105,600	総会諸経費(会場・講師・謝礼)
旅 費	60,000	0	会議費にて支出
慶 弔 費	120,000	84,000	看板代
交 際 費	150,000	30,312	広告掲載費
教育助成費	360,000	359,740	
学校図書充実費	150,000	150,000	
体育文化助成費	0	0	
卒業記念品助成費	60,000	59,740	印鑑購入補助
登龍会館運営助成費	0	0	
進路対策費	150,000	150,000	
事業活動費	2,330,000	2,077,192	
支部育成費	150,000	43,688	支部総会等祝い金、データ出力代
会報発行費	1,930,000	1,930,000	発送切手、封筒・会報印刷代
事業費	0	0	
研修費	0	0	
登龍賞基金	250,000	103,504	図書カード、楯購入・刻印代
基 金	1,150,000	1,150,000	
同窓会基金	1,150,000	1,150,000	
予 備 費	360,000	74,931	
予 備 費	360,000	74,931	通信費、会報発行費に流用
合 計	4,955,000	4,053,166	
次期繰越金	0	1,262,299	

平成29年度 白河高等学校同窓会予算書

収入の部 (単位 円)

項 目	29年度予算	前年度予算比	備 考
繰 越 金	1,262,299	△ 689,926	
入 会 金	955,200	△ 46,800	1,200円×796名
賛 助 金	2,000,000	0	個人会員
雑 収 入	501	△ 274	預金利子
合 計	4,218,000	△ 737,000	

支出の部 (単位 円)

款	29年度予算	前年度予算比	備 考
項 目			
総 務 費	485,000	△ 270,000	
事務費	15,000	△ 10,000	事務用品、卒業アルバム代
通信費	90,000	0	切手・郵便料金等
会議費	120,000	△ 30,000	常任理事会
総会費	120,000	△ 40,000	総会諸経費
旅 費	60,000	0	諸会合出席者旅費
慶 弔 費	20,000	△ 100,000	香典・弔電
交 際 費	60,000	△ 90,000	広告掲載費
教育助成費	450,000	90,000	
学校図書充実費	150,000	0	
体育文化助成費	90,000	90,000	看板代等
卒業記念品助成費	60,000	0	印鑑代補助
進路対策費	150,000	0	
事業活動費	2,202,000	△ 128,000	
支部育成費	70,000	△ 80,000	同窓会・支部総会祝い金
会報発行費	1,930,000	0	会報印刷代、送料
事業費	1,000	1,000	
研修費	1,000	1,000	
登龍賞基金	200,000	△ 50,000	図書カード、楯購入・刻印
基 金	1,000,000	△ 150,000	
同窓会基金	1,000,000	△ 150,000	
予 備 費	81,000	△ 279,000	
予 備 費	81,000	△ 279,000	
合 計	4,218,000	△ 737,000	

平成29年講演会の開催について

五月二十日(土)、同窓会総会の開会前に、平成29年度の講演会が開催されました。

今回は日本工機株式会社常務取締役・白河製造所長の佐藤公之氏(高27)に講師をお願いし、「守る技術で小惑星探査」という演題でご講演をいただきました。今回の会報発行にあたり、ご本人様から寄稿を頂戴いたしましたので掲載させていただきます。佐藤様、誠にありがとうございました。

守る技術で小惑星探査

佐藤 公之(高27)

本年度の白高同窓会総会は二十七回卒が担当しましたが、私たちが大学を卒業するときは、さびしい就職難であったと記憶しています。私自身かなり挫折を味わいましたが、地元企業に就職できたこと、そして還暦を迎えたこの年の総会で講演をさせて頂いたことに大変感謝しております。この度「守る技術で小惑星探査」という題目で講演



させ頂きました。これは、二〇一四年十二月に種子島宇宙センターから打ち上げられた「はやぶさ2」に地元企業である日本工機が関わっていたという話です。「はやぶさ2」は太陽系が生じた時の状態に近い小惑星からサンプルを採取することで、太陽系の起源を調査し、地球の未来を知るための貴重なデータを収集することが目的であり、そこに日本工機の守る技術が使われました。日本工機の起源は、昭和八年に遡ります。戦争という時代背景の中で誕生した会社ですが、その間培われた「守る技術」は人々の暮らしを守り、

地域社会に貢献する技術に進化してきました。白高を卒業した登龍健児としての誇りを持ちこれからも邁進します。

最後に、二〇二〇年「はやぶさ2」が地球に帰還しますが、その年は東京オリンピックが開催されます。その開会式を彩る聖火台への点火に「守る技術」から生まれた聖火トーチが使われることを願っています。是非応援をお願いします。

創立百周年について

事務局長 金澤隆夫(高23)

私たちの母校である白河高校は、前身である白河中学校が設立された大正十一年から数えて平成三十四年で百年になります。文武両道を実践し、これまでに二万有余の卒業生を世に送り出しています。

大きな節目となる創立百周年において、本校の輝かしい歴史を祝し、将来への発展を祈念するため、今年からその準備のための取組みがスタートしました。去る五月に開催された同窓会総会において同窓会として取り組んでいくことが決議されまし

た。

八月十日には創立百周年記念事業について、同窓会の三役と学校側との打合せが行われました。この中において、これまでの周年事業の取組みと同様に学校側が記念事業の原案を作成することにになりました。

今後は、今年度内に計画案を作成し、来年度に創立百周年記念事業準備会を設立する予定です。

同窓会としては、先行すべき事業として記念誌部会、記念事業部会、募金部会の担当役員を決定して具体的な取組みを早めに進めていきたいと考えております。

記念誌部会では、記念誌の内容と分量等を決定して、各種の資料の収集を進めていく予定です。同窓会の会員の皆様にも思いつきの写真や資料の提供をお願いします。その際にはご協力の程、よろしく願っています。

また、記念事業部会では、記念講演の講師の選考作業を着手し、早めに決定していく予定です。

後援会入会のおすすめ



後援会会長 櫻井和朋 (高12)

第99回の甲子園大会を、テレビで観戦しているうちに、本稿のメ切りがせまってきました。

第14回後援会総会は、平成29年4月22日(土) 大体育館で行われ、会議案可決あるいは、承認されました。

前回も述べておりますが、エアコン設置につきましては、全教室ほぼ完了し、リース期間終了後のエアコン付け替えについて検討し始めております。様々な問題があるでしょうが、計画的に着手を進めていきたいと思っております。皆様のご協力よろしく願っています。

さて、甲子園大会ですが、ベスト8に東北勢が2校残り、大健闘でした。地域的な格差が年々少なくなっているのが実感です。

又、私立と公立の出場校をみてみますと、全出場校49校のうち、公立は8校ありました。偏差値の高い高校は、滋賀県立彦根東高校で福島県でいえば、安積と同列です。

白高の甲子園出場を切に願っております。

母校だより

人事異動

平成二十九年度の人事異動は、次のとおりです。

三月末には、今泉恒久教頭が橘高校に異動されたのをはじめ、合わせて十三名の先生方がご異動となりました。そして、四月一日には、須賀川高校から菊地康博教頭をお迎えしたほか、十二名の先生方を本校にお迎えいたしました。

その中で同窓生は、ご退職が植村美洋先生(高27・地理歴史・公民)、ご異動は野木良一先生(高25・理科)が白河旭高校へ、鈴木健先生(高35・国語)が郡山高校への合わせて三名でした。また、新たに転入された先生方は、白河実業高校から鎌水実先生(高33・地理歴史・公民)、高橋博幸先生(高36・英語)の二名です。

今年度も、本校は教育熱心で優れた指導力を持つ先生方をお迎えすることができました。それぞれの専門分野はもちろんのこと、学校生活の様々な場面で暖かく、そして時には厳しく生徒に接していただき、地域のり

ーダーとして、さらには国際社会の中で活躍できる人材として成長できるよう、ご指導くださいます。



教頭
菊地康博

この四月、歴史と伝統を誇る白河高校に着任し、身の引き締まる思いで仕事に取り組んでおります。教頭職四校目となり、梁川高校では九十周年、いわき総合高校では十周年、須賀川高校では百十周年とそれぞれ周年行事に携わってまいりました。いよいよ本校は五年後に百周年を迎えます。百周年記念行事を通して、同窓会が更なる発展を遂げることはもちろんですが、生徒や我々教職員も新たな伝統を築くべく様々なことに挑戦していかなければならないと思えます。微力ながら尽力させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



教諭
鎌水実
(高33)

この度の人事異動により、白

河高校に赴任しました。私にとつては大学四年の教育実習以来、三十三年ぶりの母校の教壇ということになりましたが、まじめで向上心に溢れる後輩たちと共に授業をすることができ、充実した毎日を送っています。生徒それぞれが抱えている夢をかなえることができるように、また一人一人が「登龍健児」としての誇りを持って世界に羽ばたいていけるよう、一所懸命に頑張っていきます。よろしくお願いたします。



教諭
高橋幸博
(高36)

白河高校に籍を置くのは三度目になります。最初は生徒として。創立六十周年記念がありました。二度目は教員として勤務し、男女共学化と八十周年記念がありました。

三度目の今回は、是非とも百周年記念に携わり、母校の節目の年を見届けたいと思います。文武両道、質実剛健をモットーに生徒と共に頑張ります。よろしくお願いたします。

図書館だより

図書主任 森 修

本校では、日々多くの生徒が図書館を利用しています。そんな生徒たちの読書活動は、白河高校を卒業した多くの先輩方に支えられています。近年では、『週刊朝日』、『News Week』、『蛭雪時代』をはじめ、今を知り、進路を切り拓くうえで欠かせな



い雑誌類を同窓会による御寄附で購入させて頂いております。また、同窓生嶋倉晃さまより、平成元年から毎年多くの図書をご寄贈頂いており、現在の蔵書の総数は四千百冊を超えました。嶋倉文庫の特徴はその高い専門性です。文学全集、歴史資料、理化学系の専門書籍など、厳選された書籍がそろっており、生徒達の知的好奇心を満たしてきております。このような恵まれた環境を整えてくださった同窓会の皆様のご厚志に心より感謝申し上げます。



創立記念マラソン
(2017.5.18)

賛助金納入のお願い

会報第一三九号を高49回卒業までの皆様にお届けします。皆様よりお寄せ頂く賛助金は、三頁の予算・決算書にご覧頂きますように、本会の活動と母校への援助のために使われます。平成二十八年度は二、三二〇、〇〇〇円をご協力頂きました。感謝

申し上げます。本年もよろしくお願申し上げます。賛助金は、一〇、〇〇〇円できるだけ二〇以上でござい。郵便振替番号 〇二一〇〇一四二七七四 加入者名 福島県立白河高等学校同窓会

進路報告

東北大学四名、筑波大学五名、
東京工業大学一名、福島県立医科大学
五名(医学部一名、看護学部
三名)など国立大学(含準大学)
一〇五名合格

進路指導主事 渡部正一

今春の卒業生二七六名の進路状況は
下記の通りです。四年制大学進学者が
二二八名(全体の八六・二%)、短期大
学五名、専門学校十二名、就職一名で
した。

特筆すべきは何と言っても国立大
学現役合格者数で、六年ぶりに一〇〇
名の大台を達成したことです。合格者
が多かったのは、福島大学十八名、新
潟大学十五名、宇都宮大学九名、会津
大学七名、高崎経済大学六名などで、
一つの大学に複数名の合格者が出たこ
とも特徴です。一方、金沢大学三名、長
岡造形大学一名、青森公立大学(沖縄県)
一名など、例年あまり合格者が出ない
大学も含め、広域にわたって受験に臨
んだことも特徴です。私立大学は、昨
年度比プラス七で、早稲田大学二名、
慶應義塾大学一名など、現役合格延べ
三八七名でした。また、部活動をして
いた生徒も大いに健闘し、昨年度比プ
ラス十二名の五十九名が国立大学に
合格しました。部活動加入者の四年制
大学への進学率は昨年度比プラス一・
五の八十六・一%となりました。
先輩方の地道で粘り強い努力の結果
だと思いが、受験に限らず、日頃
の積み重ねが求められます。あきらめ
ず、周囲と協調しながら自分の目標に
こだわり追求する姿勢は、社会に出て
も大切な資質です。今年の三年生も先
輩方に追いつき追い越せの気概をもっ
て頑張ってもらいたいと思います。

平成 28 年度卒業生 大学等合格状況一覽

《国立大学・準大学》

学 校 名	男	女	計	H27	H26
岩手大	1		1	2	2
東北大	2	2	4	2	5
秋田大	1		1		
山形大	2	1	3	5	
福島大	8	10	18	19	11
茨城大	4	1	5	3	5
筑波大	3	2	5		
宇都宮大	7	2	9	2	10
埼玉大	2	2	4	3	5
東京工業大	1		1	1	
東京農工大	1	1	2	1	2
新潟大	11	4	15	7	8
金沢大	1	2	3		
福井大	1		1		
静岡大	2		2	1	
青森公立大		1	1		
岩手県立大	1	1	2	1	1
秋田県立大	2	2	4	1	1
山形保健医療大	1		1		1
会津大	6	1	7	4	1
福島県立医大	2	3	5	5	10
前橋工科大	1		1	2	1
群馬県立女子大		1	1	2	2
高崎経大	4	2	6	5	6
横浜市立大	1	1	2		1
長岡造形大	1		1		
都留文科大	1		1	1	
名桜大		1	1		
国立大学合計	67	36	103	89	81
国立看護大	1	1	2		
防衛大	1	1	2	1	1
華大	1	1	2		3
国立大+準大	68	37	105	89	84

《私立大学》

学 校 名	男	女	計	H27	H26
北海道医療大	1	1	2	1	
酪農学園大	1	2	3		
青森中央学院大	1	1	2		
弘前医療福祉大	1	1	2		
盛岡大		2	2		
石巻専修大	1		1		
仙台大	4		4		
東北学院大	4	3	7	13	2
東北福祉大	3	2	5	4	8
東北医薬大	3		3	2	1
宮城学院女子大	1	1	2		
東北文化学園大		1	1	1	2
いわき明星大	1		1	3	4
奥羽大	1	3	4	3	2
郡山女子大		1	1		3

学 校 名	男	女	計	H27	H26
福島学院大	1	1	2		
茨城キリスト大	1	1	2		
つくば国際大	4	1	5	4	1
常磐大	1	1	2		
流通経済大	1		1		2
足利工大	1		1		1
国際医療福祉大	9	9	18	20	16
白鷲大	10	8	18	9	24
上武大		1	1		
東京福祉大	2		2	1	
高崎健康福祉大	1	1	2	1	6
群馬医療福祉大	2	1	3	2	
城西大	5		5	3	2
東京国際大	2	1	3	2	1
獨協大	4		4	2	1
文教大	3		3	16	14
文京学院大		1	1		
明海大		2	2		2
西武文理大		2	2		
尚美学園大	1		1		
日本薬大	1	1	2		
日本医療科学大	2		2		1
東都医療大		1	1		1
神田外語大		1	1	4	1
千葉工大	21	2	23	4	7
中央学院大	1		1		
帝京平成大	2	1	3	2	2
秀明大	1		1	1	
植草学園大	1		1		
青山学院大	2	1	3	5	2
亜細亜大		1	1		1
桜美林大	2	1	3	2	1
大妻女子大		1	1	4	8
学習院大	1		1		2
北里大	1	2	3		4
共立女子大		1	1	3	
杏林大		2	2	4	2
慶応大	1	1	2	4	1
国学院大	4		4	2	4
駒澤大	2	3	5	12	9
駒沢女子大		3	3		1
芝浦工大	4		4	3	7
順天堂大	1		1		1
成蹊大	1	4	5	5	2
聖路加国際大		1	1		
専修大	7	1	8	8	4
創価大	3	1	4		
大正大		1	1		
大東文化大	3	2	5	3	14
玉川大	4		4	8	5
中央大	1	9	10	6	8

学 校 名	男	女	計	H27	H26
帝京大	6	6	12	2	14
東海大	6	4	10	8	22
東京家政大	1	1	2		1
東京経大	2	4	6	4	
東京工科大	2	1	3	3	6
東京女子大	1	1	2	1	3
東京電機大	2		2		2
東京農大	2	1	3	2	4
東京理大	3		3	8	6
東邦大	1	2	3		1
東洋大	14	5	19	12	16
日本大	26	4	30	43	29
日本歯大	2		2		
日本体育大	1		1	1	1
法政大	5	5	10	5	6
武蔵大	1		1		2
武蔵野大	2	2	4	8	4
明治大	3	2	5	8	7
明治学院大		4	4	7	3
明治薬大		1	1		
明星大	2		2	1	
立教大		5	5	7	1
立正大	1		1		3
早稲田大	2		2	6	3
ヤマザキ学園大	1		1		
麻布大		1	1		
神奈川大	9	4	13	13	17
神奈川工科大	6		6	2	2
鎌倉女子大		2	2	2	1
関東学院大	3	3	6	6	3
湘南工科大	1		1		1
東京工芸大		1	1		4
横浜薬大		2	2		2
新潟薬大	1	1	2		
金沢工大		1	1		1
帝京科学大	1		1		
山梨学院大	1		1		1
長野大		1	1		1
中部大	1		1		
立命館大	2		2	3	3
関西大	2		2		
近畿大	1		1		1
甲南大	1		1		
私立大学合計	235	152	387	380	413

《短期大学》

学 校 名	男	女	計	H27	H26
山形県米沢女短	1	1	2		2
会津大短大部	2	1	3		
桜の聖母短		1	1		1
国学院大栃木短		2	2		1
埼玉医大短		1	1		
短期大学合計	2	6	8	2	6

《専門学校》

学 校 名	男	女	計	H27	H26
福島病院附属看護学校	2	2	4		
国際医療看護福祉大	1	1	2		3
日本大	2	2	4		
しらかわ介護福祉専門	1		1		
白河厚生病院附属高等看護	3	3	6		2
昭和医大附看専	1	1	2		1
獨協医大附看専	1	1	2		1
山野美容専門		1	1		1
早稲田美容専門	1		1		
東京学園音響専門	1		1		
東京コミュニケーション専門	1		1		
専門学校合計	4	11	15	15	17

《留 学》

学 校 名	男	女	計	H27	H26
アメリカ合衆国	1	1	2		
合 計	1	1	2		1

《就職(含む公務員)》

学 校 名	男	女	計	H27	H26
自衛隊	1		1		
合 計	1		1		3

《予備校等》

学 校 名	男	女	計	H27	H26
駿台予備校	3		3	3	1
駿優予備校	2	4	6	8	3
他・自宅浪人等	5	3	8	9	11
合 計	10	7	17	38	18

平成 28 年度卒業生 進路先状況一覽

	男	女	計
国立大学(含む準大学)	60	34	94
私立大学	82	62	144
四年制大学合計	142	96	238
短期大学	2	3	5
留学	1	1	2
専門学校	4	8	12
小 計	9	12	21
次年度進学予定者	10	7	17
合 計	161	115	276

進学報告

東京工業大学へ

進学して



一組
有賀才貴

大学に進学して前期が終わり、半年が経ちました。高校と大学では大きな違いがいくつもあり、生活環境が大きく変わりました。まず授業についてですが、大学の授業は高校の授業と違って出席をとらなかつたり、遅刻しても何も言われなかつたりと大変自由です。しかし、テストで点数を取るためにはきちんと授業に出席し、テスト勉強も欠かさず行うことが必要になるので、月曜の限でもさぼらず出席するように個人の精神的強さが問われると思います。また、友人関係があると過去問を取得することができ、テストに大いに役立つこともあります。授業内容も、高校のように全員が同じ授業を受ける形態ではなく、必ずとらなければならぬ必修科目と、個人が好きなものをとれる選択科目にわかれていて、自分の好きな学問を専攻できるようになっています。次に部活動ですが、自分が想像するよりはるかにレベルが高いです。私は将棋部に入っているのですが、部活の中に強い先輩方や同期がいる、さらに大きな大会がたくさんある

ので実力を研鑽するのに非常に素晴らしい環境です。ほかにも、世界大会に出場した部活や、鳥人間コンテストに出場した部活など、素晴らしい経歴のある部活があります。後輩の皆さんは受験勉強がつかない時期だと思えますが、大学に入って生活に慣れてしまえば今より充実した生活が送れるとおもいます。自分の数年後を夢見て頑張ってください。

金沢大学に入学して



一組
山口 彩

大学に入学してから、早くも半年が経とうとしています。大学生生活にも徐々に慣れ、レポートや課題に追われながらも充実した毎日を送っています。今回このような機会をいただいたので、私の大学生生活を少し紹介したいと思います。

まず授業について、一言で言うとう高校の時よりもアウトプットすることが増えたと思います。例えば英語の授業では、グループで調べたことを英語でプレゼンしたり、自分の地元を英語でクラスの人々に紹介したりしました。初めは戸惑いましたが、自分の言葉で言いたいことを表現できた時はとても達成感があります。また、私は看護学専攻なので解剖生理学などの専門科目も学んでいます。来年から始まる実習、そして将来に向けて、

今は勉強の毎日です。

次はサークル活動についてですが、私は4つのサークルに入りました。どれもゆるめであり忙しくなく、楽しく活動しています。その中の1つは、クラシック研究会という、自由に楽器演奏ができるサークルです。夏休みには院内コンサートに参加し、多くの患者さんの前でピアノ演奏をしました。ずっと続けてきた音楽で、患者さんの楽しみを作ることができ、とても嬉しかったです。また、普段関わりが少ない他学類の友達や先輩方と一緒に演奏できるため、良い刺激をもらっています。大学ってこんな感じなのかなと、少しでも参考になったら幸いです。白高生の皆さんが希望の大学に行けるよう、応援しています。

名桜大学に進学して



五組
菊池 萌香

私は現在、福島県から遠く離れた沖縄県で大学生活を送っています。沖縄県北部に、私の通う名桜大学があります。坂の上にある大学からは、透き通った海と、サンゴ礁の白い砂浜を眺めることができます、すごく綺麗です。名桜大学の生徒は、半分が沖縄県外出身であり、同じ福島県や北海道が出身という人もいます。講義は、共通科目と専門

科目があります。共通科目は学部や学年関係なく受けることができ、外国語は8ヶ国語あったり、沖縄の自然や言語を学ぶことが出来たり、たくさんのおもしろい講義があります。

看護学科のケアリング文化実習という講義は、沖縄戦の悲惨な歴史を直に味わうために、戦跡めぐりに行ったり、北部の地区に実際に出向き、伝統行事に参加したりします。沖縄の歴史・文化の継承であったり、地域にふれあうことの出来る貴重な学びです。他にも、ボランティア活動が充実しており、月一回実施される朝市に参加し、先輩から教えてもらいつつ健康チェックを行ったりしています。

なぜ遠い沖縄まで？と思うかも知れませんが、沖縄でしか感じれないことや学べないことは沢山あると思います。周りの環境はガラリと変わりましたが、毎日が新しい発見で、楽しく充実した生活を送っています。私は、親や先生からの後押しもあり今の大学に決めました。しかし、最終決定は自分がこの大学に行きたいからです。私は名桜大学に決めたことは大きな決断ではありましたが、とても満足しています。

会津大学コンピュータ

理工学科へ入学して



六組
西 牧 光 輝

大学へ入学し、早いものでもう半年が経とうとしています。そこでせっかくなのでこの半年での学校生活などを少し紹介していこうと思います。会津大学はコンピュータ系の授業がたくさんあります。例えば、プログラミングの授業では毎週課題があり、それを次の授業までに終わらせないといけないという日々が続きます。私は入る前のコンピュータの知識は無知でしたが最初は本当にきつかったです。次は私生活の紹介をします。私はトライアスロンと軽音、COOというサークルに入っています。トライアスロンでは、ランやバイク、スイムなどの練習や大会のボランティアをしたり、軽音やCOOではライブハウスで演奏を聴いたり、演奏したりという経験をしたことのないことや新しい人との出会いがたくさんあるので新鮮です。友達との勉強会もとても面白いです。高校では「受験は団体戦」と言われていますが、高校以上に大学の期末テストは団体戦です。進学すれば分かります。いい意味でも悪い意味でも大学の勉強は自由なので合格などに縛られずに、勉強を教え合う楽しさがあります。大学に入って半年間生活して友達や家族の大切さをより感じさせられるようになりました。何もせずに出てきたご飯、いつも笑っていられた友達との存在、どれも大変貴重です。今の日々を大切に頑張ってください。応援しています。

部活動大会記録

各部の主な成績

●陸上競技部

第六十三回福島県高等学校体育大会
会県南地区大会
男子500mW 第1位 緑川大海
優秀選手賞 緑川大海
女子七種競技 第1位 藤田菜々

●卓球部

第七十回福島県総合体育大会会県南地区大会
少年女子団体 第3位 白河高校
女子個人 第5位 椎名 夢
第六十三回福島県高等学校体育大会
男子個人 第1位 中宿元太
男子個人 第2位 鈴木陽太郎

●バレーボール部

第七十回福島県総合体育大会
男子個人 第1位 白河高校
女子個人 第2位 白河高校
第六十三回福島県高等学校体育大会
男子個人 第1位 白河高校
男子個人 第2位 鈴木陽太郎

●ソフトテニス部

第六十三回福島県高等学校体育大会
会県南地区大会
男子団体の部 第3位 白河高校
女子団体の部 第2位 白河高校
女子個人の部 第2位 野土谷珠美

●弓道部

第六十九回福島県春季弓道大会
団体男子の部 第1位 白河高校
射道優秀賞 白河高校
第二十二回福島県弓道遠的選手権大会
男子の部 優勝 中宿元太
女子の部 第3位 柴田理生

●水泳部

第六十三回福島県高等学校体育大会
会県南地区大会
男子500mW 第1位 緑川大海
男子個人 第2位 有賀大希
射道優秀賞 白河高校

●男子個人

第4位 鈴木陽太郎
少年男子個人 遠的競技 第2位 中宿元太

●女子個人

第3位 根本奈々子
少年女子個人 遠的競技 皆中賞 鈴木陽太郎

●男子団体

第1位 白河高校A
男子個人 第2位 鈴木陽太郎
少年女子個人 射道優秀賞 鈴木陽太郎

●女子団体

第3位 白河高校B
男子個人 第1位 中宿元太
男子個人 第2位 有賀大希
男子団体の部 第2位 白河高校

●男子個人

第3位 有賀大希
男子団体の部 第2位 白河高校
男子個人の部 第3位 中宿元太

●女子個人

第5位 白河高校B
近的競技 第1位 白河高校A
少年男子団体 近的競技 第1位 白河高校A

●男子個人

第1位 白河高校A
近的競技 第1位 中宿元太
少年男子個人 近的競技 第2位 鈴木陽太郎

●女子個人

第3位 鈴木陽太郎
少年男子個人 近的競技 皆中賞 中宿元太

●男子個人

第1位 白河高校A
少年男子個人 遠的競技 第1位 鈴木陽太郎

●女子個人

第3位 井坂 愛
女子個人 第3位 折笠桃子
平成二十九年東北高等学校選手権大会
女子個人 第3位 井坂 愛

●男子個人

第4位 鈴木陽太郎
少年男子個人 遠的競技 第2位 中宿元太

●女子個人

第3位 根本奈々子
少年女子個人 遠的競技 皆中賞 鈴木陽太郎

●男子個人

第2位 鈴木陽太郎
少年女子個人 射道優秀賞 鈴木陽太郎

●女子個人

第1位 中宿元太
男子個人 第2位 鈴木陽太郎
少年女子個人 遠的競技 第3位 白河高校

●男子個人

第1位 白河高校A
男子個人 第2位 鈴木陽太郎
少年女子個人 射道優秀賞 鈴木陽太郎

●女子個人

第2位 有賀大希
男子団体の部 第2位 白河高校
男子個人の部 第3位 中宿元太

●男子個人

第3位 中宿元太
男子団体の部 第2位 白河高校
男子個人の部 第3位 中宿元太

●女子個人

第5位 白河高校B
近的競技 第1位 白河高校A
少年男子団体 近的競技 第1位 白河高校A

●男子個人

第1位 白河高校A
近的競技 第1位 中宿元太
少年男子個人 近的競技 第2位 鈴木陽太郎

●女子個人

第2位 鈴木陽太郎
少年男子個人 近的競技 皆中賞 中宿元太

●男子個人

第1位 白河高校A
少年男子個人 遠的競技 第1位 鈴木陽太郎

●女子個人

第3位 井坂 愛
女子個人 第3位 折笠桃子
平成二十九年東北高等学校選手権大会
女子個人 第3位 井坂 愛

●男子個人

第2位 中宿元太
少年男子個人 遠的競技 第2位 中宿元太

●女子個人

第3位 鈴木陽太郎
少年女子個人 遠的競技 皆中賞 鈴木陽太郎

●男子個人

第1位 鈴木陽太郎
少年女子個人 射道優秀賞 鈴木陽太郎

●女子個人

第2位 鈴木陽太郎
少年女子個人 遠的競技 第3位 白河高校

●男子個人

第2位 鈴木陽太郎
少年女子個人 射道優秀賞 鈴木陽太郎

●女子個人

第3位 白河高校
男子個人 第2位 鈴木陽太郎
少年女子個人 遠的競技 第3位 白河高校

●男子個人

第3位 中宿元太
男子団体の部 第2位 白河高校
男子個人の部 第3位 中宿元太

●女子個人

第5位 白河高校B
近的競技 第1位 白河高校A
少年男子団体 近的競技 第1位 白河高校A

●男子個人

第1位 白河高校A
近的競技 第1位 中宿元太
少年男子個人 近的競技 第2位 鈴木陽太郎

●女子個人

第2位 鈴木陽太郎
少年男子個人 近的競技 皆中賞 中宿元太

●男子個人

第1位 白河高校A
少年男子個人 遠的競技 第1位 鈴木陽太郎

●女子個人

第3位 井坂 愛
女子個人 第3位 折笠桃子
平成二十九年東北高等学校選手権大会
女子個人 第3位 井坂 愛

●男子個人

第3位 白河高校
少年女子個人 遠的競技 第2位 中宿元太

●女子個人

第1位 上遠野 愛
少年女子個人 遠的競技 皆中賞 鈴木陽太郎

●男子個人

第3位 猪俣真理子
少年女子個人 射道優秀賞 鈴木陽太郎

●女子個人

第3位 猪俣真理子
少年女子個人 遠的競技 第3位 白河高校

●男子個人

第3位 中宿元太
男子団体の部 第2位 白河高校
男子個人の部 第3位 中宿元太

●女子個人

第5位 白河高校B
近的競技 第1位 白河高校A
少年男子団体 近的競技 第1位 白河高校A

●男子個人

第1位 白河高校A
近的競技 第1位 中宿元太
少年男子個人 近的競技 第2位 鈴木陽太郎

●女子個人

第2位 鈴木陽太郎
少年男子個人 近的競技 皆中賞 中宿元太

●男子個人

第1位 白河高校A
少年男子個人 遠的競技 第1位 鈴木陽太郎

●女子個人

第3位 井坂 愛
女子個人 第3位 折笠桃子
平成二十九年東北高等学校選手権大会
女子個人 第3位 井坂 愛

●男子個人

第3位 井坂 愛
女子個人 第3位 折笠桃子
平成二十九年東北高等学校選手権大会
女子個人 第3位 井坂 愛

●女子個人

第3位 井坂 愛
女子個人 第3位 折笠桃子
平成二十九年東北高等学校選手権大会
女子個人 第3位 井坂 愛

部活動報告

第62回インターハイに 出場して

弓道部顧問 根本文彦

第62回全国高等学校総合体育大会弓道競技（8月1日～4日 仙台市体育館で開催）の個人戦に、白高入学後から始めた弓道で、3年の中西元太と鈴木陽太郎の2名が出場しました。今年も団体戦の4連覇を狙っていましたが、個人戦だけの出場となりました。

インターハイ前に行われた東北高校弓道選手権大会では、中西が個人戦3位、団体戦でも準優勝。福島県総合体育大会では、近的で中西が1位、鈴木が2位、遠的では、鈴木が1位、中西が2位、団体でも総合優勝。東北総合体育大会には福島県代表として少年男子チームで出場し、優勝して団体への出場を実現していました。鈴木は昨年の鳥取インターハイにも出場している中で、部活動が終わった後の小体育館に弓道場を作り、アーリーでの試合に備えるなど、昨年以上にインターハイに備えた練習を続けてきました。

仙台での練習も、弓道場を移動しながら黙々と弓を引いて備え、かなり良い状態で試合当日を迎えることができました。2年前の奈良インターハイでは、個人戦に2名が出場しました。2人とも決勝へ進み、1人は7位に入賞していますが、その時よりも今年のほうが良い状態だったと思っています。

個人戦の予選が始まり、48番の中宿、90番の鈴木が試合を迎えましたが、結果はまさかの予選敗退でした。良い状態で試合に臨めたはずですが実力を出せ



なかつたのは監督の力不足であり、頑張る準備してきた中西・鈴木の2名には申し訳ない試合をさせてしまいました。団体での活躍を応援したいと思います。今年も弓道部全員の応援に加え、多くの保護者の皆さんや卒業生たちも会場に応援いただき、本当にありがとうございました。

去る9月10～12日に松山市の愛媛県総合運動公園弓道場で開催された、第72回国民体育大会「えひめ国体」において、鈴木陽太郎と中西元太の2名が福島県選抜（他は平工業高校生1名の計3人）として少年男子近的に出場し、見事に優勝（初優勝）することができました。応援ありがとうございました。

日本一を目指して 過ごした日々

剣道部顧問 佐藤裕展

8月9日から12日まで宮城県仙台市のカメイアリーナで開催された東北インターハイ剣道競技に女子団体で参加してきました。今回の東北インターハイは今の高校三年生が小学五年

生の時から地元インターハイでの優勝を目指して強化に取り組んできました。強化がはじまるとすぐに東日本大震災があり、部活動のあり方についても色々と考えさせられました。それでもスポーツが人々に与える感動の大きさに魅了され、福島県での剣道の舞台で全国に発信できるように一心不乱に努力してきました。日本一に向けて全国各地を遠征して歩き、多くのことを学び、自分達の成長につなげてきました。集大成のつもりで臨んだインターハイでしたが、予選リーグで群馬県の健大高崎、香川県の高松商業と対戦し、どちらもリードしながら引き分けてしまいました。残念ながら予選リーグ敗退となってしまいました。今回の日本一への挑戦で改めて技術よりも心と体の成長が最も大切であると感じました。普段の生活でやるべきことをやることの大切さは小さなことに見えて、とても大切です。生徒達にとって日本一を目指して過ごした日々が剣道以外にも意味のある経験であったと欲しいと願っています。彼女たちが日本を支える社会人や母親になってくれることを期待しています。日本一への挑戦にあたって学校関係者はもちろん県内外多くの方々に応援していただき、本当にありがとうございました。

みやぎ総文に参加して

写真部顧問 藤井克憲

井上魁斗（3年生）の作品「Reflect world」が、福島県代表8名の一人に選出され、今年も文化部のインターハイとも呼ばれる全国高等学校総合文化祭に参加してきました。県大会で惜しかった他の部員の分まで、一生懸命

みやぎ総文
写真部門
トワースホテル仙台市市民会館
平成29年8月1日（火）～8月3日（木）



懸命楽しみました。今年度の写真部門の第一位文部科学大臣賞に選ばれたのは、磐城桜ヶ丘高校の生徒の作品です。心から拍手を送りたいと思います。そして同時に、全国大会で入賞するような魅力的な写真撮る可能性が、白河高校写真部全員にもあるはずなのだということに再認識しました。本校写真部の部訓の第一に掲げているのは「撮る人も、撮られる人も、観る人も、みんなが『いいなあ』と思える写真を撮る」です。今後いこのことを忘れられることなく「いいなあ」と感じられる写真を撮影していきます。その想いが審査員に伝わった時に「入賞」という結果がついてくるのだと信じています。

写真部には、壮大な夢があります。それは写真集を発刊することです。掲載する写真の全てが写真部員の写真です。愛好会から始まった今の写真部が十周年を迎える年が、ちょうど白河高校創立百周年と重なります。具体的な写真集を作るという段階になった時、周囲の皆さんから温かく応援していただけるといいな、そんな写真部を目指していきます。

みやぎ総文を通して

書道部三年 筒井美帆



私は、8月2日と3日に行われた、第41回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文）の書道部門に参加してきました。交流会では、硯にそれぞれ好きな文字を書き、他県の人たちと交換しました。また、短冊には、みやぎ総文のテーマでもある「祈り・願い」を書き、七夕飾りを作りました。さまざまな書体で書かれた、たくさんの短冊が一つになったときには、とても感動し、会場からも歓声が上がりました。交流会を通して、他県の人たちと書道について話したり、協力して作業したりすることができ、すばらしい経験ができたと思っています。

全国から集められた三百もの作品は、どれもレベルが高く、その中に自分の作品が展示されていると思うと、改めて全国大会に出場できた喜びを感じることができました。また、作品それぞれの構成や一つ一つの文字の書き方を学び、それらを活かした新たな作品を書きたいと思いました。

佐藤真紀先生をはじめとし、ここまで熱心に指導してくださった先生方に感謝しています。本当にありがとうございました。入賞できなかったことはとても悔しいですが、この悔しさをバネに、今後の書道活動を頑張っていきたいと思っています。

支部だより

東京登龍会の報告

常任幹事 澤野昌雄(高10)

平成二十九年度東京登龍会総会を五月二十七日に上野精養軒で開催しました。晴天のもと総勢八十一名の出席で盛会でした。来賓には安田好伸同窓会会長、太田孝校長、桜井和朋後援会長、金澤隆夫同窓会事務局長、根本文彦旧三学年担任教諭、鍮水実高校総務部副部長の六名にご臨席を賜り、祝辞を頂き母校の現況を聴かせていただきました。



総会司会は加藤直二幹事(高27)により進行し校歌斉唱の後、遠藤泰司副会長(高9)が会長代行で挨拶、議長を務め、松岡久幸事務局長(高22)が議事報告を行い会計報告のほか長谷川由紀子会計監査(高10)と小山田吉孝会計監査(高20)の両名が副会長として選出され承認されました。今年度で吉田忠雄(高5)及び木村幹(高7)の両副会長は退任し顧問に就任されました。また、会計監査に甲賀輝明(高20)吉田修一(高26)の両幹事を選任しました。

今回の講話は腎臓医学の権威竹内和久博士(高26)により「腎臓を守り健康を保つ」という演題で、腎臓の重要な役割を指摘され腎臓病を予防し健康寿命を伸ばす為にはメタボリックシンドロームを改善させることが肝要。これを怠ることにより生活習慣病を誘発し慢性腎臓病が発生する旨の講話がありました。健康にまつわる貴重な講話で拝聴させていただきました。

永年にわたり東邦銀行の経営に携わり、更に㈱地域経済活性化支援機構社長として活躍された瀬谷俊雄様(高7)にはその栄誉を称えブーケを差し上げました。東京登龍会全員の誇りであります。

また、鈴木和夫白河市長(高20)から丁重な祝詞を頂きました。深く御礼申し上げます。尚、総会開始前の待機時間には白河市から提供されたDVDを放映しました。

その後、宴会場に移動しての大同窓会は吉田修一会計監査が司会進行をつとめ根本文彦先生により学生参加者の郡司玄(シズカ)さん(高61・元白河高校生徒会長)、内山健人君(高69)、有賀才貴君(高69)の紹介及び挨拶がありました。有賀君は優秀な理系の学徒であると同時に将棋の名手であるとの話でした。嶋倉晃顧問(高1)の乾杯の発声で懇親会に移りました。嶋倉顧問から「今年度は東京登龍会創設三十周年の記念すべき年であり、未来に続く東京登龍会であってほしい。」との激励の言葉を頂きました。また、邊見憲二先輩(中21)に最高齢出席者を代表してブーケを贈呈致しました。

大同窓会の締め括りに、昭和19年の卒業生から平成29年の卒業生までが和気藹々と校歌と応援歌を一つになりながら謳いあげ、楽しいながらも伝統の深さを感じさせられました。この度も中西恵美子幹事(高22)には素晴らしいブーケをデザイン頂きました。また参加者の皆様及びホームページを閲覧して東京登

龍会運営の為の賛助金に協賛頂きました皆様には紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

西郷支部

総会・交流会開催

支部長 相馬 博(高17)

支部総会を八月二十五日午後七時より村内「中華飯店太閤幸苑」で開きました。始めに校歌を出席者全員で斉唱(一番、四番)し、ご来賓の西郷村長佐藤正博様、同窓会長安田好伸様、校長太田孝様からご祝辞、白高の近況等を聴聞しました。事務局長金澤隆夫様(支部会員)にもご臨席を賜りました。今回は新たな会員四名の入会、総会に出席して戴き、総勢二十八名の盛会になりました。私からは、紹介いただいた会員にお礼を申し上げ今後西郷支部の存続は大勢の方の入会が必要です。皆さんのお力添えにより、知人、友人、同僚、先輩、後輩等の支部入会を要請し協力をお願いいたしました。総会終了の懇親会では、高木彰夫さん(高10)の乾杯発声により始まり、毎回の事です時間が過ぎるのも忘れ大変有意義に和気藹々と交流を深めました。

「齢(よわい)重ねて幾星霜、

登龍健児の意気高し」

和知肇(高14)

金田幸三様を偲ぶ

東京登龍会顧問 嶋倉 晃(高1)

金田様は長く東京登龍会の会長の任にあり、会長退任後も相談役として東京登龍会発展に尽力されました。金田様は白河市横町の出身、昭和20年3月白河中学校を卒業(中20)、当時は横須賀海軍工廠への勤労奉仕もあり、戦時中の困難な時期に勉学に勤しまれ、東京大学に入学、農学部農業経済学科を卒業後日本冷蔵株式会社に就職されました。社内では最前線で走り回り高松支社長などを歴任、栄進され昭和58年から10年間に亘って社長、その後会長を務められました。

金田様の社長在任中に、社名を株式会社ニチレイに変更され現在の同社の隆盛へと繋がりが、日本中の小売店にニチレイの商品が並んでいます。また、アセロラの商品化、ゴルフのニチレイレディースの開催など金田様の社業での功績は枚挙に暇がありません。

金田様は中国古典に造詣が深く、人を立て秩序を重んじる方でした。東京しらかわ会の会長

宇野重昭氏 (中 23)

「逝去について」

去る四月一日、元成蹊大学学長、元高根県立大学学長の宇野重昭氏 (中 23) が逝去されました。先生には本校創立八十周年記念式典に際しまして「変わらぬ世界と変わらぬ心」近現代の八十年を顧みて」という演題でご講演を賜りました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

同級生は一生の宝物

「白高 50 登龍会」

筒井孝充 (高 27)

今年の同窓会総会は還暦の私達 27 回卒が担当で、進行を仁平富好君、議長を居川孝男君、そして講演に佐藤公之君にお願ひし無事終了することが出来ました。前回同窓会担当の高田良一先生 (高 32)、現担当の鎌水実先生 (高 33) のお二人には大変お世話になりました。高校生活の思い出を挙げるとすれば入学時の応援団による昼休みの校歌指導、先輩達のパン袋の水の洗礼、3 年になってリクルート雑誌の紙ヒコキ飛ばしでした。私達は昭和 50 年 3 月に卒業しましたので「白高 50 登龍会」と名付けゴルフを中心にオープン

表紙の作品について



福島県美術賞 大谷勝美 (高 34)

「シンクロニシティ」

「シンクロニシティ」とは心理学の用語で「意味のある偶然の一致」という意味です。今年の春に、こんな事がありました。私は友人の S 君に「日本画壇の重鎮の O 先生の展覧会を見に行かないか」と誘ってみました。

叙 勲 等

- 平成二十九年春の叙勲
- 旭日中綬賞 瀬谷 俊雄 (高 7)
- 瑞宝小綬賞 三好 祥夫 (高 17)

訃 報

- 永井 康一 (高 2) 平 26・1
- 高橋 司道 (高 13) 平 28・1
- 佐藤 雄吉 (高 20) 平 28・6
- 青山 直臣 (中 20) 平 28・11
- 人見 俊英 (高 12) 平 28・11
- 宮永 郁雄 (高 4) 平 28・12
- 佐藤 恒雄 (高 6) 平 28・12
- 圓谷 秀雄 (中 23) 平 29・2
- 宇野 重昭 (中 23) 平 29・4
- 金田 幸三 (高 20) 平 29・6
- 大川原重利 (高 19) 平 29・8・27
- 人見 信男 (高 20) 平 29・9・12

(叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。)

編 集 後 記

た。私がつさに「握手をしてください。」と握手を握り、なんでも言いながら私も握手をしてくれました。私は美術についてや、日常生活にいたるまでいろんな質問をしました。そして先生は丁寧に答えてくれました。最後には私と一緒に写真もとってくれました。これが最近の私の最も大きなシンクロニシティです。あの日友人と一緒にいたら O 先生には絶対に会えなかったと言いつ事になりません。本当に幸運な一日だったなとも思います。

略歴
一九六四年日河で生まれる
二〇〇八年国展入選 (以後毎年入選)
二〇一五年福島県美術賞 (県展)
現在 国画会友 (53 才)

- スーパ台風、異常な豪雨が続き被害が甚大で、全国の先輩諸兄姉は如何でしたでしょうか。心配しております。
- 母校も五年後には、百周年を迎え、今年から準備がスタートしました。昨年の 138 号では、安田豊先輩から校歌にまつわる貴重な寄稿を頂きました。百周年に向けて、昔の白高生の気質や時代背景など先輩諸兄のご寄稿を是非お願いしたいと思っております。
- 会報編集委員会
会報担当 中村 彰 (高 20)
同窓会副会長 堀川 哲雄 (高 15)
編集委員長 瀬戸 安夫 (高 22)
編集委員 横村 勝己 (高 37)
事務担当 (学校) 鎌水 実 (高 33)
〃 () 芳賀 文章 (高 57)
〃 () 服部 浩司

まんが甲子園に出場して

美術部 三年 鈴木 冨佳

8月5日、6日に高知県で行われた第26回全国高等学校漫画選手権大会(通称まんが甲子園)本選に、美術部員の中から結成された5名のチームで出場しました。

メンバーのうち私を含め3名は去年も本選に出場したので、そのとき学んだことを生かし、本番まで何度も話し合いを重ねました。去年の結果を上回れるように、自分たちができる準備を念入りにしていましたが、第一次競技敗退。敗者復活戦を勝ち抜き決勝戦に出場することができましたが、入賞はできませんでした。

競技内容は、5時間半でテーマ(第一次競技は「維新」、敗者復活戦は「光輝高齡」、決勝選は「123」)に沿ったB2サイズの作品を一枚完成させるというものです。競技時間は、長いようでもとても短く、焦る場面も多々ありました。しかし、念入りな準備の甲斐あって完成度の高い納得のいく作品を制限時間内に仕上げることができました。悔しい結果に終わり涙を流すことになりましたが、メンバーで協力して良い作品を仕上げられたこと、大会を通じて多くのことを学べたことは嬉しく思います。私は三年なので今年が最後の参加でした。最後にまた、このような貴重な経験ができて本当に良かったです。

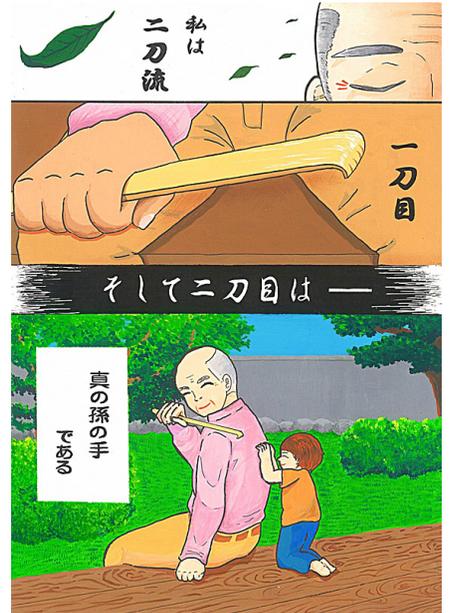
最後に、指導して下さった顧問の梅野史代先生と応援してくれた家族、担任の飛澤恒先生はじめ多くの先生方、友人、そして一緒に戦ったメンバーへ。ありがとうございました。



敗者復活戦 「光輝高齡」



第一次競技 「維新」



予選 「二刀流」

先生方や白高生から
たくさんのお応援FAXを
いただきました。



3年生2名が、小学館、KADOKAWA、講談社編集部からスカウトされました。



決勝戦 「1 2 3」